

平成 23 年 8 月 31 日～9 月 2 日

会場：福岡県吉塚合同庁舎

平成 23 年度九州ブロック保健師研修会

テーマ：住民が自己決定・自己実現できる健康づくりを支える地域保健活動をめざして
～「公衆衛生看護」の振り返り～

標記研修会へ参加いたしましたので、下記のとおり復命いたします。

氷川町 長岡ひとみ

第 1 日目)

講演：「公衆衛生活動の質を高めるために」

福岡県保健医療介護部 香月 進氏

保健師は集団を診る職種であり、住民全体の健康づくりを支えることが大きな仕事である。
保健師は何を見てどこを担うべきか？・・・各統計データ、その要因、発生する確率、予測、手立ては？
がん検診は単に多くのがんを発見することではなく、早期発見し適切な治療を行うことで死亡を減少させることが目的である。そのためには、有効性を確立した検診、徹底した制度管理のもと、質の高い健診を行うことが必要である。

講演：「福岡県の保健所を核とした在宅医療の取り組みについて」

福岡県保健医療介護部医療指導課課長補佐 鎌田 久美子氏

「高齢多死時代」に入り、女性の社会進出、核家族化、都市への人口集中など生活の変化が著しい時代。
福岡県では在宅での死亡は全国 46 位⇒福岡県は病床数が全国と比較して多いことも影響していると思われる。
アンケートでは最期を自宅で過ごしたい 83%とあるのにそのうち 76%は現実には難しいと感じている。
医療計画の策定の時期でもあり、在宅医療の目標を取り込もうと事業開始の経緯を話される。
H17.7 福岡県終末期医療対策協議会を立ち上げ、在宅ホスピス研修会、訪問看護の強化（24 時間対応）、
NPO・ボランティアとの協働など環境づくりに努めた。H20 からは「在宅医療推進協議会」と変更。
地域在宅医療支援センターを保健所に設置、①地域体制コーディネート②個別支援コーディネートを行った。
そして、この動きにより繋がり⇒定着するシステムが作られ、在宅看護の情報提供だけでも住民の意識が変わった。
（アンケート結果；自宅で最期まで療養したい：研修前 11.8%⇒26.2% 現実困難と思う：研修前 49.2%⇒28.9%）
地域のケアサービスを作り出すことは憲法 25 条 健康で文化的な生活の保障 につながるものである。

第 2 日目)

実践報告：①地域在宅医療支援センター（保健所）の取り組みについて

北筑後保健福祉環境事務所健康増進課課長 伊藤 順子氏

第 1 日目の講演の詳細を話される。H22 より地域在宅医療支援センターを 9 か所に増やした。
課題として、医師看護師の在宅療養に関する知識や認識が少ない、病院の支援体制が整っていない、退院調整は病院によって様々、在宅療養希望を受け入れる訪問看護ステーションが少ない、24 時間対応してくれる薬局（麻薬管理）が少ないなど課題はたくさんあった。訪問看護ステーションを立ち上げ、研修や事例検討、情報交換等行うことで関係性も作られ、自発的な意見が増えてきた。保健所保健師の役割として「病院完結型」→「地域完結型」を目指して人と人をつなぐ橋渡し役や看護や介護のネットワーク作りが重要であった。

実践報告：②自殺対策の取り組みについて

八女市黒木総合支所保健福祉課保健係 草場 京子氏

熊谷保健師の学習会で死亡統計をみるためにデータを拾ってみると 65 歳以下の死亡原因第 1 位は自殺だった。
自殺対策について取り組む必要性があり、町長も後押ししてくれた。
「うつ病対策」ではなく「こころの健診」としてネーミングし、特定健診、がん検診と併せて EBM のある問診票を利用し、問診票でスクリーニングを行った。また、自殺の多い所の近くに「いのちの電話」と数枚の 10 円玉をおいたり、ティッシュ配布等普及啓発、講演会、傾聴の講演会、セロトニン教室と銘打って「アロマ教室」等実施。
個別フォローとして乳幼児健診に心理士を配置したり、EPDS で産後うつ対策、心の健康相談を開設した。自殺対策は取り組みがすぐに見えるものではないが、続けることが大切。地域に浸透していけるように努めたい。

実践報告：③住民との協働で取り組む生活習慣病対策

熊本市 山本三枝氏 勝木 誠氏

熊本市の保健活動の特徴・・・一校区一保健師、校区単位の健康づくり、市民協働

レセプト分析 (H17)

⇒生活習慣病に関する医療費の占める割合が高い、熊本県全体と比べ 10 年早い「生活習慣病」の発症、

総人口に占める人工透析患者の割合が全国中核市の中で 2 番目に高い、市民の 3 人に 1 人はがんで死亡
これらから特に健康課題が多かった「河内地区」をモデルに選定し、H20 より取り組み開始。

●自治会長、PTA 会長に相談⇒地区のキーマンへの働きかけ

●地域に健康課題をわかりやすく返していく

●機会を見つけて（訪問、教室等）いろんな世代のいろんな声を聞いていく・・・地道な保健師活動の大切さに気付く
ミドリモデルの手法を使って、実行委員会で一緒に検討していく＝地域を知り、地域とともに動く！！

住民自身を動かしていくその意識の変容、仕掛けを作ることができた

グループワーク：実際の担当ごとでグループを作り、業務の振り返りを行う

●グループワーク①現在の仕事を整理しよう

付箋に書き出し、同じグループに分けていく。私たちのグループはそれぞれ分けた内容にタイトルをつけて、

絆（人をつなぐ） プロフェッショナル（専門の目で診る） 仕掛け人（仕組みを作る）
聞き上手（傾聴・引き出す） 喋り上手（納得させる・説明する） ひらめき（最良の方法を見つける）
宝探し（データの読み取り・課題の把握・地区把握） 整理上手（PDCAで事業展開する）

とプラスの表現にしてまとめた。⇒こうまとめるとなんと保健師活動ってすばらしいことか！！

●グループワーク②課題を分析してみよう

それぞれ付箋に書き出し、プラスの要因、マイナスの要因に分ける。大きなコミュニティでは顔が見えない大変さ、保健師のまとまりづらさなどが出た。小さなコミュニティではその逆の意見が多かった。

●グループワーク③住民主体となった事業展開をしていくために保健師はどうしていかなければいけないか？

グループ①でまとめた現在やっていることに返って保健師の基本をやっていくことが住民主体に繋がるのではと意見がまとまった。

第3日目）

公衆衛生看護への原点回帰 ―住民と協働する地域づくり方法―

北海道大学大学院保健科学研究院 佐伯和子氏

現在の保健師活動⇒個別支援減少、保健事業の増加、地区活動の後退、事務業務の増加

本当はもっと地域に出たいというジレンマがある・・・やる気があるこそ悩むこと！

「地域看護学」とはコミュニティでの看護：昔は保健師だけだったが職種の幅が増え保健師だけではなくなくなった。私たち本来の活動そのもの「公衆衛生看護学」に帰ろう！

「公衆衛生看護とは、集団・コミュニティ志向の看護活動であり、その目標はすべての人々を対象に人々が健康になることができる状態を創造し、疾病と障害を予防すること」である。

老健法以前の保健師活動・・・一部紹介「開拓の母：大西若稲さん」紹介

（地域の衛生環境、生活習慣、住民の意識を変えていった保健師活動）

「13歳のハローワーク」という本では、保健師を「温かい人間性、しっかりした体力・精神力」と表現。

保健師活動は名称の独占・・・今後大学では大学院で専門性を学んだ人に免許を与える、免許を安売りしない

“私たち保健師は保健師が育てなければ育たない” しっかりした人材を育てること。

統計・・・自殺の統計をみると、バブルがはじけた時から自殺は増えている。しかし、国の取り組みはH21程度。

国の政策があるから取り組むのではなく、データから地域の課題として現状に合わせて動く目を持つこと。

「けんこう」はまちづくりのキーワード

<地域づくりにおける保健師の役割>

- | | | |
|----------------------------|---|----------|
| 1 地域の全住民の健康を健康増進・予防的視点の保障 | } | 前提 |
| 2 リスクを持つ個人。家族の「生活」を支援する看護者 | | |
| 3 地区に責任を持つ健康の総合的パートナー | | |
| 4 住民の意思を持ち、力を引き出す | } | 実践 |
| 5 専門家としての情報を提示 | | |
| 6 システムを円滑に機能させるための調整 | | |
| 7 第一線で活動する健康課題の政策者 | | ・・・活動の発展 |

<良い保健師とは、自分の感性に基づいて住民のために動く人⇒そのためには様々なエビデンスが必要>

【感想】

今回、この研修の中では「原点回帰」がキーワードであったらうと感じた。

平成の大合併をした市町村が多くなり、組織の中で保健師本来の動きがしづらい環境がある中で、私たち保健師は本来、どうあるべきか、毎日の事業をこなすことに多くを費やしてはいないか、地区の健康を守るプロの目で、何を目的にどう変えていきたいのか考えて動いていくべきではないか、そのようなことを提案してもらったように思う。

研修中のグループワークで、保健師の仕事を振り返るときに、保健師が集まると、どんどん面白いアイデアが浮かんできた。そして、保健師というこの仕事の素晴らしさ、奥深さを改めて感じる事ができた。

法という枠はあるものの、地域の特性に合わせて、保健師のアイデア次第で膨らませていくことができる、例えば形の決まったキャンパスだけで描く人の感性に合わせて好きなように描くことができる、そんな印象だった。

これからコミュニケーション能力や人を動かすスキルをもっと伸ばし、地域全体を診て、地域がどのように変わっていったらよいのか、政策を提案できるような保健師として成長できるよう努力していきたいと思う。